

会議結果報告書

1 会議の名称

令和5年度第1回柳井市立図書館協議会会議

2 開催日時

令和5年5月28日（日）10時～12時00分

3 開催場所

柳井市立柳井図書館2階視聴覚室

4 出席者

7名（欠席 3名）

5 公開・非公開の別

公開（傍聴人 0名）

6 会議の議事録（要旨）

（1）開会

（2）柳井図書館長あいさつ

（3）協議事項

（1）図書館サポーター制度の構築について

（事務局）

図書館サポーター制度 事務局（案）について説明

（委員）

サポーターを募集する目的について教えていただきたい。

（事務局）

サポーター募集の目的については、市民の皆さんと一体となり協力し複合図書館を運営していくことで、図書館活動の活性化に繋がっていく。市民参画による複合図書館の運営を目指していく。

（委員）

無償でのボランティアになると思うが、ボランティアの定義について伺いたい。

無償となると、参加できるときだけの対応でよいのか。

(事務局)

サポーターについては、都合のいい時間帯だけの参加で構わない。

基本的な図書館の運営については職員が行う。サポーターについては、自主的にお手伝いしたいと言われる方に補助としてお手伝いいただくこととなる。

市民が参画していただけることで図書館の運営がより良くなっていくことになると思う。

(委員)

体調等で当日に出勤できなくなるサポーターについて、職員によるサポート体制も確立してほしい。そうすれば無償でも問題はないのではないかと思う。

サポーター制度については、できない範囲のことは最初のうちはしないほうがよいのではないか。

(事務局)

サポーターについては、まだ募集していない段階なので、どれだけの方に登録していただけるのかも分からない。

職員によるサポート体制については、開催の日にちを調整するとか、職員による読み聞かせ等の体制づくりなどは必要だと考えている。

(委員)

司書業務サポーターについて、知識のある方が望ましいが、やり方を教えてもらえればできるようになるのではないかと思う。

あと、条件に中学生以上とあるが、子ども同伴でのサポーター活動は難しいかなと思う。サポーター同士で同伴してきた子供の面倒をみます。というようなことがあれば、子育て世代も参加しやすいと思う。

(事務局)

想定はしていなかったが、そういう体制は組めるかどうか、これからの募集に際して相談させていただきたい。

(委員)

読み聞かせサポーターについて児童対象と記載してあるが、課題のとおり、対象が0歳から10歳までとなるとあまりにも幅が広すぎるように感じる。

逆に、こういう本を用意しているとアナウンスすれば行きたい人が行くのではないか。

(事務局)

アナウンスにより、対象をしぼりたい。

(委員)

この読み聞かせサポーターについては、定期的に毎週行いたいのか。

(事務局)

提案している(案)では、毎週土日の開催を想定している。イベントを目指して来館される利用者もいれば、本を借りに来るだけの利用者もいると思う。その中で、当日のアナウンスにより、このようなイベントに参加してもらえそうな企画もあっていいのではないかと思い提案している。ただし、課題にもあるように、対象年齢が幅広くなることも懸念される。アナウンスの方法についても検討していきたい。

(委員)

読み聞かせを行う読み手も、対象年齢を想定しながら選書を行う。毎週何曜日は乳幼児対象など決められたらいいのではないか。

(委員)

読み手について技術的なこともあると思うが、ストリート読み聞かせみたいに誰でも読み聞かせができていいと思う。

(委員)

子供達が、小さい幼児対象に読み聞かせを行ったことがあるが、幼児たちも喜んでいて。このようなこともあっていいと思う。自由にこのようなイベントができる雰囲気を作っていきたいと思う

(委員)

できれば、聞き手側であった子どもたちが、いつかボランティアとして読み手側になってほしいと思う。

(事務局)

読み聞かせサポーターについては、土日にこだわらず、平日でも行うことを想定したほうが良いか。

(委員)

曜日は決めずに募集したほうがいいのではないか。

(委員)

カッコ内に児童を対象とするとあるが、絵本は児童だけが対象ではなく大人向けもある。児童対象については外したほうが良いのではないか。

(委員)

高齢者向けのおはなし会も実施してもらいたい。また、複合図書館に大人向けの絵本コーナーも設置してもらえるといいと思う。読み聞かせについては、児童に限らず大人向けも行い、そのPRも大事だと思う。

あと、サポーターの募集について、対象が中学生からとなっているが、サポーターの応募人数によっては、收拾がつかなくなるのではないかと疑問を感じる。

学生サポーターを募集するのであれば、学校と連携し、学校に新たに図書館に関連するような部活を立ち上げてもらうようにはできないか。

(事務局)

学生サポーターについては、学校とも連携していきたい。

(会長)

中学校の現状からみると、学校内に新たに部活を立ち上げることは難しいと思う。現在は部活を無くしていくほうに向かっている。

お祭りのときは、学校に依頼があり、学校側が子供たちに声掛けを行い集めている。

学生は、部活や勉強などで非常に忙しいのが現状である。

中学生から募集をかけても、実際には学生で応募があるのは数名になるのではないかと思っている。応募が多くなった場合には、学校司書を通じて等、学校との連携も必要になるかなと思う。

読み聞かせサポーターについては、技術は問わなくてもよいと思う。

また、対象年齢も絞る必要はないように思う。児童対象というよりは、幼児向けの読み聞かせが主になると思うので、その時に児童も参加してもらえたらよいのではないかと思う。

当面は、曜日と時間帯を決めて、まずはサポーターが用意した本を読み、終わったら幼児が読んで欲しい本を読んであげるといったような時間を作れたらいいのではないか。

また、好評ならサポーターに名札をつけてもらって、絵本コーナーでいつでも読み聞かせを行うようにスタンバイしてもらうようにもできたらいいと思う。

大人向けの絵本の読む会についても流行っているのでいいと思うが、児童用スペースで同じように開催は出来ないと思うので、別に大人のための読み聞かせの会をスタジオで定期的に行ったほうがいいのではないかと思う。

司書業務サポーターについて経験者に絞るとほとんど集まらないと思う。経験者に絞らなくても、最初にきちんと説明をして行うようにすれば、配架はできるのではない

かと思う。修繕は難しいのではないかと思うので、修繕については、司書が必要とするときでの対応でいいのではないか。

(委員)

サポーターの募集はもう行うのか？

(事務局)

タイミングはまだ決めてないが、だいたい建物の引き渡しを受けるタイミングぐらいかなと想定している。

(委員)

複合図書館に本を移動し、配架するときには人手があったほうがいいのではないかと思うが。

(事務局)

図書資料の移動については、スポット的な募集になる。

今回提案しているサポーターについては、複合図書館が開館してからの継続的なサポート体制の構築についてである。

移転の際に人手が必要な場合には、別に案内できればと考えている。

広く公募し、多くの参加があっても収拾がつかなくなる可能性があるので、移転計画を固めて、必要な人数の募集を行うようになると考えている。

(委員)

移転に伴うサポーターについては、協議会で相談しなくてもよいか。

(事務局)

募集の仕方も固めていないので、必要な場合には相談させていただく。

たとえば、学生にお手伝いいただき、ヤングアダルトコーナーへの配架をしてもらうなど対象を絞って募集するようなことも検討したい。

(会長)

学生を対象とするなら、学校に直接依頼するほうが良いと思う。

(委員)

まだ空の図書館に入れるのは貴重な体験となるから、イベントとして行うのは良いと思う。

(委員)

できれば、児童書担当の司書を配置してほしい。児童書を専門的に収集や展示をしてもらえるといいのではないかと思う。

また、市民活動センターと一緒にするというのは目玉の一つだと思うので、新たにイベントを企画するのではなく、交流プラス（市民活動情報誌）によると、市民活動センターでは、毎月いろいろなイベントを行っている。

複合図書館開館後には、市民活動センターのイベントがかなり行われるようになると思う。

(委員)

市民活動センターともう少しコミュニケーションをとり、イベントに関しては図書館独自に考えなくてもいいのではないか。

(事務局)

もちろん連携を取らないといけないと思っている。

市民活動センターのイベントに併せて、図書館の資料を紹介しつつ連携した取り組みができればいいと思う。

まだ開館後のイベントの具体的な構築ができていないが、市民活動センターの行事が決まりつつあるので、オープンに向けて事前に打ち合わせをしていきたい。

(委員)

複合図書館の全体を見渡せる状況の人がいたらいいのではないか。カウンターの中だと無理だと思う。小さい子供さんを連れてくる方などは図書館に来館しても、子育てが忙しくすぐに図書館から離れていく可能性がある。

そのような人にもなんとか図書館を頼ってほしいと思う。案内板での表示ではなく、人対人のコミュニケーションが大事だと思う。一度カウンターにて相談すれば、司書がレファレンスサービスをしてくれるが、その前段階の声掛けをどのようにすればいいかと思う。せっかく芝生があったり、子ども用スペースがあるので、できるだけいい時間を過ごしてもらいたいと思っている。子育て世代の方にも、図書館の本をどんどん借りて欲しいし、利用してもらいたい。図書館側が読ませたい本もあると思うし、できればそのような本を読んでもらいたい。

できれば、そういった本を探せない人に気軽に声掛けができるような体制を構築してほしい。案内係のような人がいたらいいのではないか。

サポーターの中に目配りができて声掛けができるような人がいたらいいなと思う。

(事務局)

このような人員については、図書館側で体制を構築すべきだと思う。この度のサポー

ター構築について提案をしているが、もしサポーターに参画していただける方の中から、そのような業務に対応してもらえ方がいらっしゃったら、新たにそのような制度を構築することも考えられる。

複合図書館のコンセプトに子育て支援機能を掲げている。開館中全てとはいかないかと思うが、困っている方、本を探している方への声掛けができるような体制の整備も考えていきたいと思う。

(会長)

たとえば、読み聞かせサポーターの人がそのエリアの見守りをする事ができれば声掛けの役目を果たせると思う。

しかし、アドバイザー的な仕事については、レファレンス業務に当たると思う。これは専門職のレベルになるので、ボランティアの方がその業務を行うのは難しいと思う。これは司書の仕事になると思う。

もし可能なら、児童書コーナーに児童書担当司書の席を設ける事ができれば、利用者の方が聞きやすい環境となると思う。

また、複合図書館が開館されたら、職員やサポーターに声掛けしやすい雰囲気を作り出すことが大事だと思う。

(委員)

カウンター業務を行う司書とは別にコンシェルジュを配置し、お客さんが尋ねたいことを聞ける環境を整備して、司書や相談員への橋渡し役をサポーターが担うこともできるのではないか。

(委員)

図書館に入って、どこに行けばいいかわからないときに聞きやすい人を配置するのはいいと思う。

また、現在、定期的に行っているおはなし会とこの度提案しているサポーターによる読み聞かせの線引きを確認したい。

(事務局)

現在、定期的に行っているおはなし会は、図書館主催の行事として行っている。サポーターの方をお願いする読み聞かせについては、定期的に行っているおはなし会と違って、長時間行うことは考えていない。

(委員)

サポーターによる読み聞かせは、どこで行うのか？

(事務局)

おはなしの部屋で行うように考えている。大人向けの読み聞かせについては、別のスタジオで行うよう検討する。

(会長)

サポーターによる読み聞かせについては自由にできたらいいと思うが、行う場所について、臨機応変にしたほうが良いのではないかと。

(事務局)

当初(案)としては、あまり長くない時間で、事前告知ではなく、館内放送による呼びかけのみによる開催をイメージしていたが、先ほどから様々なご意見を頂いたので、もういちど(案)の見直しを行い、現在行っているおはなし会とは区別化し、実施していきたいと思っている。

(委員)

サポーターの募集時期について、もう一度確認したい。

(事務局)

建物の引き渡しが9月末の予定となっているので、引き渡し後の秋ごろからの募集を予定している。ただし、工事の進捗により予定通りとなるかどうかは分からない。もし変更となった場合にはお知らせする。

(委員)

専門的な技術までは必要ないかもしれないが、読み聞かせサポーターや司書業務サポーターについては、応募者への講習は行っていただきたいと思う。

(事務局)

建物の引き渡しを受けてから実際に開館するまで約半年あるので、その間にサポーターの講習は行っていただけたいと思う。

(委員)

協議会の立ち位置について、協議会が何をしていくのか確認したい。準備室と協議会があるが、どのように連携していくのか。イベントについてはどこで考えていくのか。

(事務局)

協議会は、館長の諮問に応ずる機関で、館長に対して意見を述べることできる機関である。

(委員)

イベントについては協議会で決めていくのか。またイベントについて協議したことは反映していくのか。

(事務局)

市としては、協議会については、この度のサポーター制度についてのよう、委員のみなさんからご意見をいただきたいというのが立ち位置だと認識している。

(委員)

この協議会がどういう方向にいるのか、市民活動センターとどのように連携していくのか、どのように協議していくのか、まだ詳細な部分が決まっていないと思う。

市民活動の日のことについても、まだ周知が行き届いていないように思える。

(事務局)

市民活動センターの移転についても決まっていることであり、図書館と市民活動センターとの打ち合わせができていないとの指摘をいただいたことは解決していかないといけないと思う。

(委員)

市民活動センターとの連携について、周知や告知を含めて進めていってほしいと思う。

(事務局)

ご意見いただいたことについては、地域づくり推進課と協議していきたいと思う。

(委員)

お願いしたいことがある。子育て世代のことで、支援センターとは別に公共の場でおもちゃがある施設がフラワーランドしかなく、母親同士で集まる時には、文化福祉会館を借りて、毎月集まって活動をしているが、その時におもちゃを借りて持って行っている。

複合図書館で、子育て支援を掲げるのであれば、ぜひスタジオの一つか倉庫にでも自由に使えるおもちゃを、全部寄付するので置いてほしいと思う。

(事務局)

会長からも柳井のかるたなど、紹介していただいたところである。ちょっとした遊びができるようなものの設置について準備していきたいと思う。

(委員)

ブックスタートのときに、おもちゃを用意して、絵本の読み聞かせを行っていたが、子どもたちは、すぐにおもちゃのほうに行ってしまう、絵本に興味を示さなくなったことがあったため、おもちゃを無くすようにしてもらったことがあった。

なので、おはなしの部屋におもちゃを置くのはどうかと思う。

(委員)

おもちゃの使い方として、読み聞かせ時におもちゃが必要なら持って来て、必要ないときには片付けて、読み聞かせサポーターによっては、読み聞かせが終わった後にフリータイムとしておもちゃで遊ばせてゆっくり過ごすようなことができればいいのではないかと思う。おもちゃを常設してもらえれば、集いの場所にしたいと思う。

(委員)

大畠でおこなっているおもちゃのひろばのようなイベントを月に一回程度行うようにするのはいけないか。

(委員)

それもいいと思うが、母親たちはイベントではないときにも集まることがあり、集う場所を探している。その時におもちゃがあれば助かる。

(委員)

これは、図書館の機能というより市民活動部分の機能かなと思う。おもちゃの保管をお願いしたいということになる。

(会長)

サポーター制度構築についての協議は、以上で終了する。

続いて協議事項(2)に進みたいと思う。

(2) その他

○複合図書館開館セレモニーの開催について

事務局から説明

- ・大きな集客ができる施設ではないため、多くの人を呼んで大規模な集客を促すようなイベントを行うことは考えていない。
- ・竣工式・式典については、行政サイドのほうで検討していく。
- ・オープニングイベントについては、竣工式の日午後に行うものもあると思うが、竣工式の日から一か月程度は、オープニングイベントの冠を付けて事業を行えた

らいいと思う。

今後、オープニングイベントについても具体的に検討してことになるので、ご提案等伺いたいと思う。

○現柳井図書館フィナーレイベントの開催

事務局から説明

- ・感謝、ありがとうというものをキーワードに開催していきたい。
- ・現図書館と複合図書館がつながるような企画がいいのではないか。
- ・日程についても各関係機関と調整し実施したい。

フィナーレイベントについても、これから皆さんからご意見をいただきながら進めていきたいと思う。

(会長)

開館セレモニーと、フィナーレイベントについては、まだ開催まで時間があるので、検討してもらい、提案してもらえればと思う。

なにか意見等があれば聞きたいと思う。

(委員)

以前、ぬいぐるみのお泊り図書館を大島図書館で行った。複合図書館でもボランティアグループで開催したいと思っている。できれば建設中の複合図書館にてぬいぐるみと写真を撮りたいと思っているができないか。

(事務局)

建築業者に確認してみる。

(会長)

以上で、協議事項についての協議を終了する。

(4) 館長あいさつ

(5) 閉会